

男女共同参画



特集

「家族」

その1

家族の核は夫婦

「家族」

その1 家族の核は夫婦

今年度のテーマは、男女共同参画情報誌 f・wave の f の意味のひとつ、family — 家族です。特に今号ではその家族の核である、夫婦にスポットライトをあててみたいと思います。



談会 座

「夫婦ってなあに」

〈出席者〉

●高橋 志夫 (多西小学校校長)

●野口 金雄 (東京農業大学成人学校講師)

編集委員 5名

— 男女共同参画社会の実施には、家庭、とりわけ夫婦の力が最も重要です。しかし、その夫婦がお互い充分にコミュニケーションがとれているかという、そもいかなのが実情でもあ

野口

まず朝起きて夫婦で挨拶しているか。じいちゃん、ばあちゃんにあいさつできるか。親子であいさつしていれば、社会に出ても自然に出来る。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。

私の家は、93歳の母と私共と息子の家族の8人ですが、母がだいたい認知症が進んで、娘が来て「どちらさん？」なんて言うほどなんです。カミさんは「こんなおばあちゃんをかわいそうで施設になんか預けられない。」といって面倒を見てくれます。感謝感謝です。孫も年をとるとこうなるんだ、ということも自然に学ぶ、一緒に暮らすという事は、そういうことに意味があります。年寄りと嫁と子どもと一緒に暮らすことはとても大事なのだが、そうできない世の中の仕組みになっています。私が今まで元気に働けたのはカミさんのおかげだと思っています。

高橋

私もカミさんのお陰で今があると思っています。今は休みの日は二人で散歩したり、山へ行ったり、一緒に過ごして二人の生活を楽しんでいきます。でも、昔は違いました。新婚時代は少年少女のサッカーの指導をしていて、土・日も夏休みもサッカー一筋の生活でした。子どもたちを健全に育てるには、スポーツだということの信念を持っていました。ところが、そういう生活を続けていて30歳を過ぎた時、大病をしたので手術をし、一ヶ月の入院生活をしたときです。カミさんは考え込んでしまったのです。今まで従って支えるだけの立場だったが、これじゃダメだ。言い



野口 金雄 さん

高橋 志夫 さん

たいことをちゃんと言おうと思つて「このままでいいのか」「これから子どもたちも家庭もどうするのか」と、離婚話まで出て、究極の選択を迫られ、ハッと目覚めたのです。その時、10年後、20年後を想像したことで冷静になりました。それからサッカーから手を引き、二人の生活を大事にしています。

— 奥さんがあきらめないでわかってもらえるまで思いを伝えたことが、大きな転機につながったんですね。

野口

うちも決して平穩無事で来たわけではないです。父親と取っ組み合いのけんかもし、夫婦げんかもやりました。でも真剣にぶつかっていれば必ず相手に通じます。ここがポイントだと思えます。何か問題があったら、うやむやにしない。思いっきりぶつかって前へ進む。なまじ調子を合わせても、うまくいかないです。

— けんかも大事なコミュニケーションなんですね。

高橋

普通の子が犯罪を犯すことがあるんですが、それは家庭の中で感情のぶつかり合いを経験していないからです。本気で親子の感情のぶつかり合いがなかった。それを避けてきたために、ある時爆発してしまう。真剣にけんかすることで、バランスをとるのです。

野口

私は夫婦というのは、お互い切磋琢磨することが大切だと思つています。うちは一人の人間として認めた上で、お互い趣味をのぼし、そして光っていないといけない。お互い生き生きとしていつまでも、うちのカミさん素敵だ、と思えるようじゃなくちゃと思つているんです。

— 画家の丸木俊さんの話ですが、一連の原爆の図は、俊さんが人体を描いて、夫の依里さんがその上から薄墨をのせて仕上げたそうです。「夫婦で個性をぶつけ合いながら、共同作業でやらないや完成しなかった。」といつていました。夫婦で力を合わせると1+1が2ではなく何倍にもなるんです。

高橋

カミさんは小さいころから親テレビを観ても親から、これについてはどう思う？ と自分の意見を必ず持つように育てられた。私がサッカーで家にいないときも、子どもといっぱい会話をして、子育て、家事を楽しんでいました。また、朝食だけは必ず家族で一緒に食べました。食事のときこそ、コミュニケーションをとる絶好のチャンスですから。

野口

私には4歳の双子の孫がいるんですが、農業を教えているんです。二人とも畑が大好きでちゃんと仕事をします。私も祖父に農業を教わりました。4時半に起きて、学校に行く前に牛の草を刈ってから行ったものです。

— 今は家の仕事を、子どもが責任を持ってやるということが少なくなっています。仕事をすることで自分も家

族の一員という自覚が生まれます。

— 子育て中に夫婦で意見の食い違いはありませんでしたか。

野口

私は勉強よりも大変な時にくじけない耐えられる力と思いやりの心を身につけさせることが、親の責任だと思つているので、その点では全く一致しています。私の幼なじみで草花出身の某医大の脳外科の教授がいますが、子ども時代はものすごくいたずらもしたけれど、今は日本でもトップクラスの人です。

高橋

世界的に有名な建築家である安藤忠雄さんという人は幼少のころ、自然の中で思い切り遊んだので、世界の一流の中でもいい仕事が出るという話をしていました。自然の中で遊ぶと感性が磨かれ、知恵が湧くんです。私も夫婦で、子どもはなんにでもなれるように育てよう、と話し合いました。どん底に落ちてもたくましく生きていけるようになります。

野口

いたずらをして知恵が働くんです。それを今は大人が、ちょっとなにかすると、アレもダメ、コレもダメと言って、頭をおさえてガキ大将が育たない。大人が男を弱くしています。自然の中で思い切り遊んで、



自分の命は自分で守る術も身に付ける事が大事です。

高橋

結局、結婚生活は男が頑張らなければいけないのだと思います。女性は耐え忍ぶ時代が長く続いた。男は昔から外で働いて稼いでくれば、長としてあがめられてきた。しかし、女性の自立意識と社会進出で、耐え忍ぶ時代は終わった。男は与えられた地位がなくなったのだから、自分で作っていかなくてはならない。夫として父親としてどう生きていったらいいかを考えなくてはならないと思うので

す。

野口

男はいばるんじゃないなくて、男の責任を果たして、奥さんが子育てから何から何まで頑張らなくなっちゃなくなってしまう。

高橋

私は考え方を変えました。カミさんも専業主婦で、家のことをしっかりやってくれ、私も学校で仕事をやる、帰った時点では対等だから、同時に二人で一緒に家事をやる、というふうに決めました。

野口

それは大事ですね。私も子育て中の5年間は絵も一切かかなかったです。カミさんが一生懸命やっているのに、絵なんかかいていられなかった。

— 男性の発想の転換のときですね。家事も育児も、男と女の共同参画です。

高橋

私は文部科学省に言いたいことがあるんです。家庭科で家庭生活と夫婦のあり方を勉強する機会を作って欲しいということ。父親、母親になったとき、家事をどうやるか、コミュニケーションをどうとるか、根本的なことを学ぶべきだと思います。

— それは是非、必要なことですね。

野口

私も毎日忙しくほとんど家にはいないのだが、生活は楽しくをモットーにしています。昨日も孫がプールに入りたいたいというので、軽トラックにブルーシートを敷いて水を入れ「移動プールだぞー。」と言ったら二人が大喜びをした。お金をかけなくても、アイデア次第で生活を楽しむこと

が出来ます。

高橋

恋愛感情だけでつながっていいところから、育ちも経験も違う人間と一緒に暮らしていくのだから、相当の努力無しには維持していけない。夫婦間でも基本的なあいさつ、何かやってもらったらありがとう、ときちんとやっていかないとまうかない。そういう小さな積み重ねや気づきが大切です。

野口

お互いおもしろいやりがあれば大概のことは大丈夫です。





夫婦で会話を

楽しもう

夫婦の会話時間は何分？

毎年、マスコミでは「いい夫婦」「理想の夫婦」などが発表され、夫婦に関するアンケート調査も行われています。下の円グラフは『平日一日の夫婦の会話時間』に関するアンケート結果です。結婚一年目では、会話時間30分以下は少数派です。しかし、結婚年数を重ねるに従い、30分以下は増えていきます。そして結婚年数15年〜20年では、約45%が30分以下となっています。

会話時間三十分がボーダーライン

一日の会話時間が30分以下の場合、相手に対し「愛情をあまり感じていない」「ほとんど感じていない」と答える人が3割を超えます。そして30分以下

の夫婦の半数が「離婚を考えたことがある」と答えています。一方、会話時間が30分を超える夫婦では、「十分に愛情を感じている」「まあまあ愛情を感じている」と答える人の合計は約95%です。これらのことから、会話時間と愛情は密接な関係にあると考えられます。

あなたが変われば相手も変わる

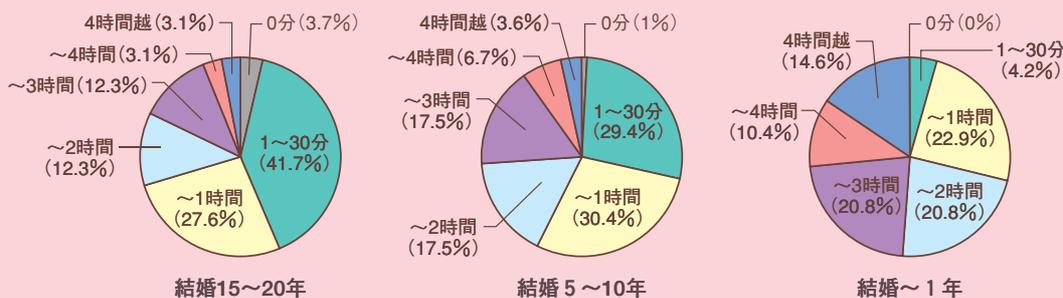
夫婦間では、相手のことをわかっているつもり、相手も自分のことをわかってくれていると考えがち。「コミュニケーション不足に陥りやすいものです。」「語らなくとも相手に伝わる」「男は黙って……」では、気持ちは伝わりますが、夫婦だからこそ、気配りが必要です。会話を増やすよう、お互いに

努力し、夫婦力、家族力を高めていきましょう。

夫婦の会話のための五箇条

- ① 相手の目を見て挨拶を
 - ② しつかりと話を聞こう
 - ③ お互いを認め合って
 - ④ 一緒に行動、話題を作ろう
 - ⑤ 気持ちを込めて
- 「ありがとう」

平日一日の夫婦の会話時間



参考資料 ● 「11月22日は『いい夫婦の日』」 ホームページ
 ● 2009年 明治安田生命 「いい夫婦」に関する アンケート
 ● 「夫婦力 夫の「話し方」で夫婦はこんなに変わる」 汐見稔幸 岩崎書店 2008年
 ● 「人は「話し方」で9割変わる」 福田健 経済界 2006年 など

in あきる野

になるご夫婦に聞いてみました。

- ① なれそめ
- ② 決め手
- ③ 共通の趣味
- ④ 心がけていること
- ⑤ 尊敬すること
- ⑥ 大事なことの決定権
- ⑦ 来世はいっしょ？
- ⑧ 若い人へのアドバイス

別居結婚からの出発で

結婚13年



天野夫妻 夫・配送業(52) 妻・専業主婦(40)

- ① 仕事場が一緒でした。
- ② 年が12歳離れていたのですが、頼りがいがあると思った。
- ③ 6年程行けていないけれど旅行。夢は、家族揃って、スパリゾートハワイアンズ&東京ディズニーランド&各々の実家(北海道・福岡)への旅。
- ④ お互いの領域には、入り込まないようにしている。
- ⑤ 夫は真面目。特に仕事や時間に関して。特筆すべきは、ビートルズに異常に詳しいです。
- ⑥ 二人で話し合って決めるのが9割。後の残りは、妻です。
- ⑦ はい。でも子どもが6人で止まってしまったので、来世は夫がもっと若い時に巡り会いたいですね。
- ⑧ 相手の良い所をたくさん見て、褒めて、悪い所も受け入れながら、お互いに良い関係を作ってください。

社交ダンスで出会い、一目惚れ

結婚56年



松島夫妻(自営業) 正治さん(87) 千恵子さん(80)

- ① 社交ダンスで出会い、彼の一目惚れです。
- ② 彼女の帰りを待ち伏せしたり、家まで会いにいったり、反対があってもとことん一緒になろうという彼です。
- ③ 社交ダンス。
二人でなくてはできない見せるダンスです。何でも話せます。
- ④ 一日中一緒にいるので隠し事はありません。
- ⑤ 夫はお人好し、だまされてしまう位です。
妻は生活の仕方が合理的で上手です。
- ⑥ 妻が決定権を持っています。
夫は洗濯だけやります。
- ⑦ 来世はあるのかなあ？分からない
- ⑧ 結婚は勇気がある。違う環境の者同士が一緒になるのですからね。

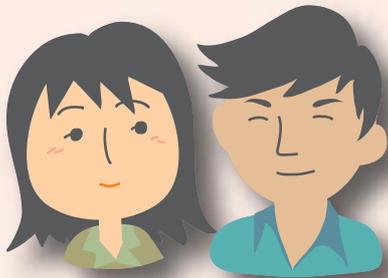


いんたびゅ〜

結婚生活のこと、わが町あきる野の気

かつてラブラブ、でも
今はちょっと…ね

結婚6年



妻 (40) 夫 (40)

① 友人の紹介です。
 ② こちらの苗字になってくれる。地方の人なのに東京に住んでくれる。ということ。
 ③ ありません。
 ④ 子どもの前では、喧嘩をしない。
 ⑤ 夫は、仕事をがんばっている。
 ⑥ 私(妻)です。
 ⑦ いいえ。
 ⑧ 結婚する前に、一緒に生活してみた方が良かったです。男の人は、母親が鍵です。自分が親はもちろん、親族・周りの人間関係を受け入れられるか。逆に相手も、自分の周囲を受け入れてくれる人か。結婚したら仕事をどうするのか、子どもが産まれてからの家事分担を、事前に話し合っておくと良いと思います。

良く相談し、隠し事はしない

結婚36年



島崎夫妻 (自営業) 美和子さん (59) 三男さん (63)

① 職場結婚です。
 ② 上司の勧めもあり、なんとなくそんな雰囲気になっていきました。先は分からないがあまり夢を見ないでくれと彼に言われました。
 ③ 旅行です。
 ④ 資格を取り、独立してからは補い合う道なのでしょうね。お互い我慢して、仲良く、協力しないとやっていけないです。元気で気合を入れてやることです。
 ⑤ 夫は年寄りに優しいし、大きな心を持っています。妻はよく気がつくし、気配りができます。
 ⑥ 良く相談し、隠し事はしない。その上で多くは妻が決め、大きな事の最終決定は夫が決めます。
 ⑦ 夫がまた結婚してあげるよと言ってくれたことはうれしかったです。
 ⑧ 自分を守りすぎて傷つくのをおそれている。あまり失敗をおそれないこと。2人で力を合わせれば何とかあります。

モラル・ハラスメントってなあに？

こんなこと ありませんか？

夫は入浴中。妻は脱衣所で洗濯をしようとし、夫のズボンのポケットに1000円札が入っているのに気づく。

「あーあ、いい湯だった」夫は気持ちよさそうに風呂から上がってきた。

「これみて」と妻はその1000円札を夫に見せる。

「あなた、この前もポケットにお札入れっぱなしだったわよ。もう。」

この一言で夫の顔色が変わる。

「その『もう』って何だ。それって俺のこと馬鹿にしているんだろう。」

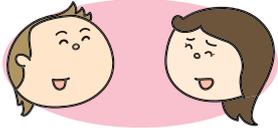
「別にそんなつもりで言ったんじゃないわよ。」

「そんなつもりで、俺には聞こえたんだよ。えらそうに。」

「だいたいな、お前、昔は俺に敬語使って話をしていただけで、何で今はタメ口利いてんだよ。」

「スイマセンだろ。まったくお前は昔からダメなやつだ。」と説教が続く。

そしてこの日から、夫の無視が1週間も続いたのです。



些細な事から始まる夫の嫌味、暴言、そして無視。
ことばや行動によって繰り返し行われ、
あなたに襲ってくる精神的苦痛、精神的暴力、見えない暴力。

それが
モラル・ハラスメント
です

夫からのモラル・ハラスメントで苦しんでる人がたくさんいます。

苦しんでいても、それがモラル・ハラスメントだと気づいてない人もたくさんいます。

モラル・ハラスメントについて、ライフフォーラムで、学び、考えてみませんか？

編集後記

人間関係に悩む人は多いものですが、全てはすり合わせが必要であると思われれます。それは、夫と妻どちらの望みが正しいかを競うことではありません。彼は何を望んでいるのか、彼女の望みは何か。互いに異なる家族の中に育ち、異なる文化の中で異なる望みを持って育ってきたのだ、と気付くことから、ようやく「夫婦」を始めることができるのではないのでしょうか。

情報誌編集委員

……石川光代・大本浩子・齋藤映子・
代田富貴子・山崎敦子・山崎経子

表紙デザイン ……齋藤映子

「エフ・ウェイブ」は公募の市民編集委員により編集しています。

Information

インフォメーション

第15回 女と男のライフフォーラム in あきる野

ご存知ですか

モラル・ハラスメント

(ことばの暴力)

「あなたはパートナーの顔色を
うかがって生活していませんか？」

● 日時 平成22年12月12日(日)

午後1時30分から(予定)

● 場所 ルピアホール

(あきる野ルピア3階)

● 講師 熊谷早智子さん

(モラル・ハラスメント被害者同盟)

詳しくは、広報あきる野11月1日号をご覧ください。



エフ・ウェイブ 第25号 2010年10月発行

発行／あきる野市市民部市民課 〒197-0814 あきる野市二宮350番地
TEL 042-558-1111 FAX 042-558-1116
企画・編集／あきる野市男女共同参画情報誌編集委員会

再生紙を使用しています